

## 「フォトコンテスト」受賞作品のご紹介

第51回泉崎村民文化祭にて開催されたフォトコンテストの受賞作品を紹介します。審査員は、吉田写真館・吉田製作所、南湖のほとり写真室のフォトグラファー吉田智一さんです。

**【文化協会長賞】** 作品名：鳥峠のくんだり道 作者：嶋村 美恵子さん  
**審査員講評：**まるで紅葉した木々が創り出したトンネルを通り抜けていくような、非常にダイナミックな構図が素晴らしい作品です。写真に収められた峠道は、見る人を深く引き込み、この先どこまでも鮮やかな紅葉が続いていくかのような錯覚を与えます。左から覆いかぶさるような木々の配置が、奥行きと躍動感を演出し、見る者を紅葉の旅路へと誘う力強い1枚です。



## はっぴい ばあすでい Happy Birthday

今月1歳の誕生日



根本 蒼生くん(字八雲神社)



本柳 莉珠ちゃん(字八雲神社)



本間 芽郁ちゃん(字下宿)

## リレートーク

301

### 長榮 幸一さん(字八雲神社)

埼玉県から泉崎村に引っ越して36年。引っ越し後、弓道教室があることを知り、弓道にはまって弓道5段の段位をいただくことができました。

その活動の中で泉崎村や福島県の多くの方と友達になり、その中に手打ちの十割蕎麦を打つ方がいました。私も蕎麦が好きだったので、自分でも十割蕎麦を打ちたいと思い、蕎麦打ちを始めました。

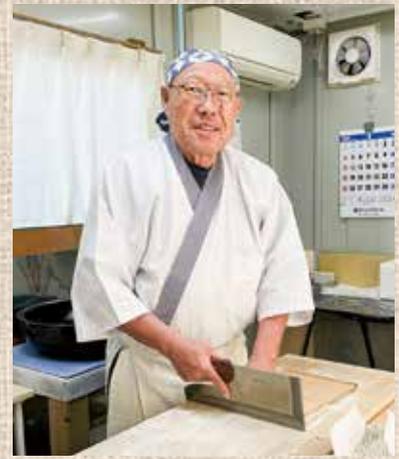
しかし、始めた頃は妻に文句を言われながら、太く短い蕎麦をスプーンで食べていました。泉崎村には蕎麦を打つ方が多くいたので、その打ち方を見聞きしたり指導してもらったりしながら、毎週蕎麦を打ち、1年かけてなんとか細くて長い蕎麦が打てるようにな

りました。

以前は福島県のさまざまな十割蕎麦店に妻と食べに行っていたのですが、今ではどこかに食べに行かなくても私の蕎麦が1番美味しいと言ってくれます。

泉崎そばの会に入って、カントリーヴィレッジに納めるようになり、少しずつ自信がついてきた頃、はにわの里の開業時にぜひ店の中で蕎麦を打ってほしいと依頼がありました。最初は、お客様が見ている前で打つのは恥ずかしくて嫌でしたが、慣れもあり1年半やらせていただきました。

今では、図々しくもそば会の皆さんと公民館主催の蕎麦教室で講師をしており、生徒の皆さんと一緒に蕎麦打ちを楽しんでいます。



次回、山田 愛さんにバトンタッチ！

発行・編集 泉崎村役場総務課  
 〒969-0196 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字八九145

TEL 0248-53-2409 FAX 0248-53-2958  
 ホームページアドレス <https://www.villizunizaki.fukushima.jp/>

令和8年3月1日発行(毎月1日発行)